

第 105 回日本精神神経学会総会

金 沢 総 会 記 念 講 演

金沢総会後 40 年をふり返って——将来への展望

山 口 成 良 (医療法人財団松原愛育会松原病院)

1969 年 (昭和 44 年) 5 月の金沢での第 66 回総会は、精神科医療が荒廃させられつつあるこの時、精神科医療を回復し、真の精神科医たらんとする学会認定医制を考えるべきだという、若い精神科医の意見が反映されて、3 日間にわたる学会期間は、プログラムにあった会長講演、シンポジウム、一般演題などすべての発表は中止され、総会議事で終始した。そして、総会経費等総会の運営は、今後学会員の負担によって運営していくことが総会で決議された。金沢総会後、学会運営の合理化と民主化が行われ、「会員は倫理的配慮のもと、精神医学と神経学の発展に寄与し、患者の人権を尊重し、精神保健・医療・福祉の質的向上に貢献し、会員相互の研鑽・点検の機能を果たさなければならない」の要点を盛り込んだ「学会基本理念」が採択された。金沢総会後、1987 年から新しい精神医学教育委員会が設置され、その中の卒後教育と学会認定医制検討小委員会から 1994 年、「学会認定医制に関する答申」が行われ、10 年の歳月を経て、精神科専門医制度規則が制定され、現在、専門医認定試験が行われつつある。世界精神医学会 (WPA) から、日本での医学会の開催の要請が何回あったが、時期尚早ということで見送っていたが、2002 年は学会創立百周年にもあたり、第 12 回世界精神医学会横浜大会を誘致し、開催した。また、同会場で学会創立百周年記念行事が行われ、日本精神神経学会百年史が刊行された。学会は精神保健福祉法、性同一性障害者に関する特例法などの、法の成立や改正にあたり、種々の提言を行ってきた。精神分裂病を統合失調症に呼称変更することも提案した。阪神・淡路大震災をはじめとする自然災害に際しても、学会は心のケアの支援活動を行った。21 世紀の当学会の発展を期待し、将来への展望を開くためのいくつかの提言を行った。

＜索引用語：第 66 回金沢総会、学会基本理念、精神科専門医制度、第 12 回世界精神医学会横浜大会、日本精神神経学会百年史＞

I. はじめに

1969 年 (昭和 44 年) に金沢で、島藺安雄が会長として開催された第 66 回日本精神神経学会総会は、5 月 20 日から 22 日までの期間中、プログラムにあった会長講演、2 つのシンポジウム、188 題の一般演題はすべて発表ができず、総会議事²⁾で終始した。その理由は、図 1 の総会会場金沢市観光会館前の立看板の内容のごとく、精神科医療は荒廃させられつつあるこの時、精神科医療を回復し、真の精神科医たらんとする学会認定医

制を考えるべきだという、若い精神科医の意見が反映されたためだった。それから 40 年経った今日、金沢総会以後 40 年の学会の活動をふり返り、将来への展望を試みたいと思う。

II. 金沢総会以後の学会の改革と発展

1. 学会運営の合理化と民主化

第 66 回日本精神神経学会総会において、いわゆる小沢提案といわれる、「総会経費等総会運営に関する決議」が採択された。その内容は、「第

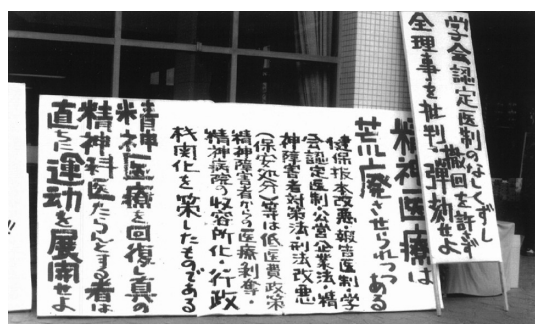


図1 第66回総会会場（金沢市観光会館）前の立看板

66 回日本精神神経学会は製薬資本、関連病院の寄附や金沢大学医学部神経精神医学教室員の犠牲の上に立っておこなわれてきた。このような従来の慣習は精神医療、精神医学のあり方を歪めるものであったことを反省し、今後は学会員の負担によって運営していくことを決議する」であった。その後の毎年の学会総会の運営は、参加学会員の参加費によって賄われ、赤字になれば学会から補正し、黒字になれば学会会計に納めるという合理的な方法がとられるようになった。

また、学会を民主的に運営するために、学会基本理念起草特別委員会（委員長 山口成良）が設置され、以下の学会基本理念が、1997 年（平成 9 年）の理事会、評議員会で承認され、精神経誌の毎号に掲載されることとなった。

学会基本理念

（前文略）

1. 会員は、常に倫理的配慮のもと、精神医学と神経学の発展に寄与しなければならない。
 2. 会員は、患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して精神保健・医療・福祉の質的向上に貢献しなければならない。
 3. 会員は、学会を民主的に運営し、会員相互の研鑽・点検の機能を果たさなければならない。
2. 新しい精神医学教育委員会の発足と精神科

専門医制度の制定

第 66 回金沢総会以前に、精神医学教育・専門医制度委員会があつて、専門医制度の制定が論じられていたが、第 66 回金沢総会后、精神医学教育委員会の活動は立ち消えとなった。そして、理事会で教育の話をするのはタブーの感すらうけた。そこで山口は、1986 年（昭和 61 年）7 月の理事会において、「精神科卒前・卒後教育に関する委員会」の設置を検討してもらいたい旨要請し、1987 年（昭和 62 年）から新しい精神医学教育委員会（委員長 山口成良）が設置された。その後、精神医学教育委員会は、卒後教育と学会認定医制検討小委員会、卒後教育推進小委員会、卒前教育検討小委員会に細分化され、1994 年（平成 6 年）3 月、卒後教育と学会認定医制検討小委員会（委員長 山内俊雄）から「学会認定医制に関する答申」³⁾を行った。これが、いわゆる山内答申といわれるものである。その後、10 年の歳月を経て、精神科専門医制度規則（2004 年）、同施行細則（2005 年）が制定され、2005 年度から 2008 年度までは過渡的措置期間とし、筆記試験を含めた新規の専門医認定試験は 2009 年度から行われることとなった。なお、この新規の専門医認定試験を受けるには、学会の定める研修ガイドライン（研修手帳）により、精神科臨床研修を 3 年以上受けることが求められている。

3. 学会の国際化へのきざし——第 12 回世界精神医学会横浜大会の開催

世界精神医学会（World Psychiatric Association, WPA）は、2002 年現在で世界 98 ヶ国、112 団体から構成されている国際的な学会であり、3～4 年ごとに大会を開催している。第 1 回大会は 1950 年にパリで開催され、その後日本にも何度か開催要請があつたが、時期尚早として見送られていて、特に第 66 回金沢総会後は鎖国的な状況にあった。しかし、1995 年 6 月の理事会において、国際的状況からみて、もはや日本が WPA 総会の開催を引き受けざるを得ない状況にあること、2002 年が日本精神神経学会創立百周年にあ



図2 第12回世界精神医学会横浜大会(2002)の開会式

たるということもあり、新たに学会としても国際的舞台に東西交流の面も含めて前向きに世界に向かって何かを提起する国際学会にしたいということで、2002年の開催国として立候補することを決め、WPAに申し出た。そして、1997年10月北京WPA地域シンポジウムの際、WPA理事会が開かれ、2002年日本・横浜で開催することが決定された。第12回世界精神医学会横浜大会の組織委員会委員長には大熊輝雄が選ばれ、Partnership for Mental Health(手をつなごう、このころの世紀に)をメインテーマとして、演題・参加者募集が行われた。

横浜大会は、2002年8月24日から29日まで、横浜市パシフィコ横浜ならびに周辺施設で開催され、開会式には皇太子殿下・同妃殿下のご臨席を頂き(図2)、内外から約6300名の参加者を迎えて、盛会裡に終了した。なお、第12回世界精神医学会横浜大会記念切手が総務省から贈呈された。

この横浜大会で、日本精神神経学会は現在の精神保健・精神科医療のあるべき姿についての世界に向けての提言を行った。これは第12回WPA総会にて、WPA横浜宣言(WPA Yokohama Declaration)として採択された。

4. 日本精神神経学会創立百周年記念事業

理事会は2002年(平成14年)が学会が創立(1902年、明治35年)されてから百周年の記念

すべき年にあたることから記念事業として、1) 日本精神神経学会創立百周年記念行事の開催と、2) 日本精神神経学会百年史の刊行を企画した。そして以下のごとく実行された。

1) 日本精神神経学会創立百周年記念行事

①日本精神神経学会創立百周年記念式典

2002年8月24日、パシフィコ横浜会議センター1階メインホールで記念式典が開催され、佐藤光源理事長挨拶、来賓挨拶、功労者表彰(理事長・会長経験者)があった。

②記念講演

伊藤正男(理化学研究所脳科学総合研究センター)の「精神医学における脳科学の役割」と題した講演とNorman Sartorius(ジュネーブ大学)の「Mental Health and the Creation of the Civic Society(精神保健と市民社会の創造)」と題した講演とがあった。

③記念シンポジウム

森 温理・松下昌雄司会のもと、「わが国における精神医学・医療の歴史と展望——21世紀における精神神経学会の新たな発展を目指して——」と題した記念シンポジウムが行われた。シンポジストとして秋元波留夫、松下正明、山口成良、仙波恒雄、佐藤光源が選ばれ、それぞれの立場から、精神医学・医療の歴史と展望が述べられた。

④学会百周年記念展示

WPA横浜大会の展示会場の一角に主に写真による学会百周年記念展示がなされ、WPA横浜大会の開会式のあと、皇太子殿下ご夫妻も丁寧にご覧になられた。

2) 日本精神神経学会百年史の刊行

学会創立百周年の記念事業の一環として日本精神神経学会百年史の刊行することが決定され、編集委員長として山口が指名され、山口を含む15名の編集委員から成り、第1回百年史編集委員会を1999年6月26日に開いて、執筆にとりかかった。最終の第15回委員会は2002年12月6日であった。制作は医学書院出版サービスにお願いした。

2003年5月15日に発行された百年史は図3に

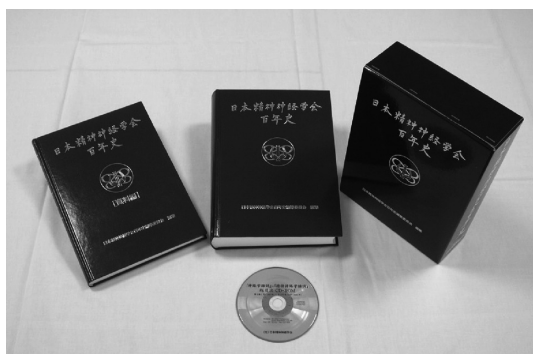


図3 日本精神神経学会百年史（資料編，本編，CD-ROM）

示したごとく，869頁からなる本編と，357頁からなる資料編とCD-ROMから構成されている。CD-ROMには，①第1巻1号（1902年）から第103巻12号（2001年）にわたる「神経学雑誌」「精神神経学雑誌」の総目次索引（人名，キーワード，巻号から検索できる），②第66回総会以後の重要と思われる理事会・各種委員会報告，答申，提言，見解，意見などの一覧，③学会誌収載精選論文（1902～1954）49編復刻掲載，が収納されている。

5. 法・災害などとの関わり

日本精神神経学会は，1) 精神保健福祉法，2) 性同一性障害に関する特例法，3) 心神喪失者等医療観察法，4) 水俣病特別措置法案などの法の成立や，改正にあたり，種々の提言を行ってきた。

特に性同一性障害については，厚労省から診断と治療に関するガイドラインを当学会に求められ，学会の中に「性同一性障害に関する特別委員会」（委員長 山内俊雄）を設け，1997年（平成9年）5月28日付の「性同一性障害に関する答申と提言」の中で，「性同一性障害の診断と治療のガイドライン」を公表した。これによって性同一性障害は医療の対象であり，性別適合手術は性同一性障害の治療として正当な医療行為であると位置づけられた。

学会の「精神分裂病の呼称変更委員会」（委員長 佐藤光源）から提案されていた，精神分裂病という呼称を，統合失調症に変更すべきであるという委員会見解が，平成14年度通常総会（第98回総会，横浜，2002年）で可決され，その後，公文書でも統合失調症という呼称が用いられるようになり，関係者に多くの福音をもたらした。

1995年（平成7年）1月17日午前5時46分に，淡路島北端を震源地として発生したマグニチュード7.2の地震（阪神・淡路大震災）は，最初5500名の貴い人命を奪い，被災後死亡を含めると犠牲者は6300人以上といわれている。学会では，いち早く「阪神大震災対策特別委員会」（委員長 浅井昌弘）を設置し，こころのケアにとりかかった。その支援活動は，神経誌第97巻号外¹⁾としてまとめられている。その後に発生した中越地震を始めとする自然災害などに対しても，その地域の学会員が，活発なこころのケア活動を行ってきた。

Ⅲ. 学会の将来への展望

図4に示したごとく，2009年（平成21年）8月20日現在の会員数は14,314名で，平成12年以後会員数の目覚ましい増加がみられる。21世紀の当学会の更なる発展を期待し，将来への展望を開くためには，以前⁴⁾にも述べたごとく，

1. 学会の更なる国際化をはかる
2. 心を癒す医師の育成
3. 合理的薬物療法の開発
4. 患者の人権を尊重し，開かれた精神医療，精神科リハビリテーション（社会復帰）の更なる推進
5. 国の精神保健・医学・医療・福祉行政に関して学会として建設的な政策を提言する
6. 学会の基本理念を堅持する

ならば，日本精神神経学会は永遠に存続し，かつ発展し続けることであろう。

講演を終えるにあたり，発表の機会を与えていただいた第105回日本精神神経学会学術総会会長前田 潔神戸大学

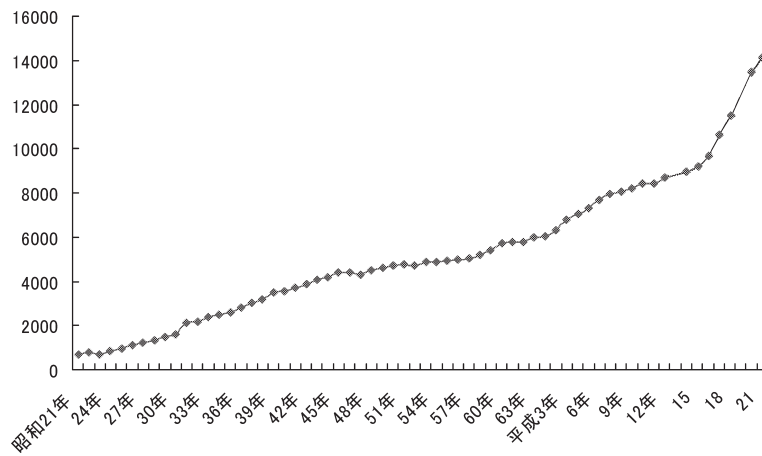


図4 日本精神神経学会会員数の推移

教授に深謝いたします。また、司会の労をとっていただいた日本精神神経学会理事長鹿島晴雄慶應義塾大学教授に感謝いたします。

文 献

- 1) 阪神大震災対策特別委員会：阪神・淡路大震災における支援活動資料集—こころのケアをめざして—。精神経誌，97，号外；1-454，1995
- 2) 日本精神神経学会理事会：第66回日本精神神経学会議事録。精神経誌，71：1029-1206，1969
- 3) 卒後教育と学会認定医制検討小委員会：学会認定医制に関する答申。精神経誌，96；1235-1247，1994
- 4) 山口成良：日本の精神医学・医療の回顧と展望(1) 日本精神神経学会の回顧と展望。精神経誌，102；675-683，2000